

第2回 第2期西東京市文化財保存・活用計画策定懇談会会議録

会議の名称	第2回 第2期西東京市文化財保存・活用計画策定懇談会
開催日時	令和5年11月8日(水) 13:30～15:30
開催場所	西東京市役所 田無第二庁舎4階会議室1
出席者	(委員) 入井委員、加藤委員、鈴木委員、瀧島委員、小野委員、濱崎委員、古山委員、矢野委員 (事務局) 西東京市社会教育課 吉田課長、森主係長、亀田学芸員、川野主任 ランドブレイン株式会社 宮脇、宇井、花井
欠席者	都築委員、長谷川委員、青木委員
議題	1 開会 2 確認事項 (1) 前回議事録の確認 (2) 第2期西東京市文化財保存・活用計画検討の流れ (3) アンケート速報結果 3 協議事項1 第3章：文化財の現状と課題について (1) 文化財を取り巻く現状について (2) 文化財を取り巻く課題について 4 協議事項2 ワークショップ及びヒアリング調査について 5 その他
会議資料	資料1 第1回懇談会議事録 資料2 第2期西東京市文化財保存・活用計画検討の流れ 資料3 アンケート速報結果(15歳以上/小学生/中学生) 資料4 文化財保存活用の現状について 資料5 文化財保存活用の課題整理表 資料6 ヒアリング調査項目案 資料7 市民ワークショップ案 資料8 第2期西東京市文化財保存活用計画
会議内容	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
○座長： 確認事項(1) 前議事録の確認について説明をお願いします。	
○事務局：	

【資料1により説明】

○座長

確認事項（2）第2期西東京市文化財保存・活用計画検討の流れについて説明をお願いします。

○事務局

【資料2により説明】

○座長

ご意見、ご質問はあるか。

（意見なし）

○座長

確認事項（3）アンケート速報結果について説明をお願いします。

○事務局

【資料3（1）、（2）、（3）により説明】

○座長

ご意見、ご質問はあるか。

○委員

男女比の集計はしているか。

○事務局

男女の集計はとっていない。

○座長

協議事項1について説明をお願いします。

○事務局

【資料4、5（1）文化財の保存の活用により説明】

○座長

ご意見、ご質問はあるか。

○委員

西東京市には近現代の産業、文化財と認識されていなかったものでも大事な要素があり、そこへのアプローチをどうしていくかである。

○座長

産業、戦争遺跡もある。ひばりが丘団地あたりも対象になってくる。

○委員

近現代のものだとまだ触れられるものがあるため、触れることで、文化財を考えるきっかけ、入口になる。

○座長

下野谷遺跡はガイドランスが長く課題になっているため、解決してほしい。

田無と保谷が合併してから25年になり、西東京市史のような記念誌があった方が市民の意識が高まるのではないかな。

○委員

市の歴史を学ぼうと思うと、田無市と保谷市両方を読まなくてはいけない。市史は情報が多く、読むのが大変であり、西東京市史の簡単なものがあればよい。広く周知するために文化財や歴史をカラーで分かりやすく表記したリーフレットのようなものがあれば、市民の意識も醸成されるのではないかな。

○委員

保存の課題は、文化財保護行政の課題ともいえる。近現代のものや、開発が進むにつれて、古い民家などの登録案件など、継続的な課題として記載される。意識の醸成は、文章にするとこのようになるが、アンケート読み込むと、西東京市のアイデンティティを持ちにくいのかと感じる。文化財地図などから見えてくる地域の歴史もあるため、どう伝えるかが課題である。合併したからこそ見えてくる歴史が、冊子やイベント等で伝える工夫が必要である。点と点をつなげ、面的に見ていく姿勢が必要。そのような意味合いで博物館のようなものが必要となると考える。

アンケート結果から地域の文化に関わることが社会参加になることの意識を持ってもらっていないと感じる。歴史や文化に関わることが生活にもつながっていくという歴史の語り方、意識醸成が必要。

西東京市らしさを市民がみえてないとすると、面的な歴史の語り方をどうつくっていくかが文化財の課題と考える。

○座長

地域計画にどう踏み込んでいくかを考えていく必要がある。

○委員

ストーリーでまとめられるため、より関心を持てるよう、どう具体化していくかが必要である。

○座長

検討してもらいたい。

○事務局

【資料5（2）文化財の活用の課題について説明】

○座長

最近、イベントが開かれていないがどうか。

○事務局

指定になってからは、シンポジウムを続けていたが、コロナもあり、継続できていない。課題となる。

○委員

体験をしているものは認知度もあると考える。下野谷遺跡の見学や藍染めなど、特別な体験として、気付き、愛着となる。学校教育の中で体験する機会を増やすことが重要だと考える。

特に食はアプローチとしてわかりやすい。地域の商店街やお店などの協力も得られるのではないかと。食の体験を増やすことは今後よいと思う。

○事務局

第1期計画の際に、中学生から縄文給食があるとよいという意見があり、採用して実現している。

○委員

活用で言うと、大学生が町を知るためのすごろくを企画してくれた。スタンプラリーなども実施する。文化財を絡めたイベントにできると感じている。地域の人たちが文化財をからめたイベントを行うことの意識を高められればよい。住民の意識は保存に関わらず全体に関わると思う。

課題の枠組みはこのままになるか。

○事務局

枠組みは第1期のままであるが、検討する。

○委員

アンケートを見ても、認知度が上がっているとは言えない現状のため、どうPR、市民の意識を高めるかが一番の課題と考える。関心を持てば、文化財に触れに行くが、興味を持っていない人の関心をあげるために、日常の通勤通学のルートに目にする、触れる機会があれば、よい。

西武鉄道など駅と協力し、電車車での待ち時間に展示や学ぶものなど、普段の生活の中で触れる機会があればよい。

○委員

「住民の意識」は、一番初めに持ってくる項目である。

中学生も学校行事であれば参加してもいいという意識であるため、場があることはよい。小学生のアンケート、文化財グッズの開発について、25%は高いと考える。

学習指導要領の地域学習の中で、インプットしてもう一段階、表現が掲げられている。アウトプットすることがうまくできると面白い展開になると考える。教えっぱなしではなく、一人一人がどう膨らませて表現したかで、心に残っていくのではないかと。創作的な活動に結び付けられるとよい。

○委員

一般の方が、文化財について指定文化財は守らなければならないという認識になるが、指定されていないものについて、ランク低いのかと考えてしまう。私は家のお稲荷さんなども文化財だと思っている。50年後に文化財になるように、文化財の線引きが難しい。指定されていない文化財も多くあることを広く周知させることが必要と考える。

下野谷遺跡の周知が低いのはショックである。出前授業もお祭りもあり、数値が疑問である。

○事務局

アンケートは現在の回収できている保谷中学校のみの意見である。

○委員

保谷地区の方が下野谷遺跡の周知は高いはずである。

○委員

下野谷遺跡の言葉自体と結びついていない可能性もあるのではないか。

○委員

文化財という言葉を使わずに、「まちの宝」という表現でどれだけ地域に散りばめられているかを意識してもらえれば、敷居が低くなるのではないか。まちの宝といえば、指定未指定関係ない。

○委員

今はなくなっているが、馬頭観音があった。子どもの頃、手を合わせていた。見たときに心が芽生えるものが文化財である。守るべきものだと発想できるとよい。

○座長

目線の高いものではなく、身近なものという発想になっていくとよい。表現の仕方を検討したい。

○委員

計画の中では関連文化財群。未指定文化財はみんなの宝、いずれ文化財になるもの、指定されなくても宝。ストーリーを作る際に、身近なものも含めることが重要である。

○委員

写真という文化財の認識が抜けているように感じる。写真が生まれて以降の話だが、大正時代くらいから歴史的な表現として大事なものと感じているため、残してもらいたい。図書館の写真の分類がうまくいっていないため、何があるかわかっていない。持ち主がいなくなるとアルバムも捨てられてしまうため、まちの歴史を映してあるものがなくなってしまう。

○座長

デジタルのものも含め、文化財の対象が広がっている。

○事務局

写真も含め、音源も記録として、大切なものと考えている。

前計画では触れていないため、含ませていきたい。

【資料5（3）文化財保存・活用のための施設の課題について説明】

○座長

ご意見、ご質問はあるか。

地域博物館について、設立準備委員会のような計画を詰めていくものができてもいいと考える。

○委員

どういう位置づけにするのか。行政側で位置づけするのであれば、委員会や補助、予算が関係してくるが、民間の力も入れていくとまた位置づけが変わってくる。西東京市の意識としてはどうか。

○事務局

今の段階では、施設として、博物館を作りたいと考えている。民間活力や市民の力を借りる事

○委員

保谷庁舎の跡地について、検討は出ていないか。

○事務局

具体的な場所はあがっていない。地域博物館であれば、市内全体の文化財が対象となり、広く考える必要があると考えている。

○委員

スポーツセンターやホールなどもあり、保谷庁舎であれば、複合施設として、市民が集まるのではないかと思っていた。西東京市には郷土資料室しかないため、文化のまちとして、博物館があるとありがたい。

○委員

歴史の語り方をみなで作っていく。西東京市は草の根の活動、住民の活動団体が活発である。単なる展示施設ではなく、郷土資料室ではやってこなかったこと、博物館のイメージを共有することが課題と考える。

単なる資料の陳列ではなく、博物館ではやらない歴史の語り方、私たちが語る歴史、パブリックヒストリー、おばあちゃんの話といった表現ができればよい。地域の関わりをうまく活用したい。

○委員

地域博物館は拠点として大きな意義があるが、町なかに地域博物館の要素を散りばめられた地域博物館を作っていけるとよい。

○座長

従来型ではなく、市民が積極的に体感できる新しい博物館を目指してもよいと思う。

○委員

自分たちが関わると、集まると思う。

郷土資料室としては、資料がない。調べたいものは図書館にいかないといけない。郷土資料室に文書としての資料などがあるとよい。

○事務局

プラットフォームになるものが必要で、箱ものとしての博物館をイメージしている。

○座長

地域博物館については進めていただきたい。

次に協議事項2について事務局より説明いただきたい。

○事務局

【資料6により説明】

○座長

文化財については寺・神社が多いため、聞けたらよい。

○委員

商店街関係者や未来に盛り込むため、青少年に聞けたら広がりを持つてると考える。

調査項目について、未来へのアイデアも聞いてもらえたらよい。

○委員

公民館も講座など実施しているため、ヒアリング対象になるのではないかと。授業で関わる学校の先生などいかがか。

○事務局

【資料7により説明】

○座長

ご意見、ご質問あるか。

○委員

市民ワークショップの目的をどこにおくかによるが、市民意識を高める、いかに関心をもっていただけるかPRが大事だと考える。ワークショップは参加者が20～30名程度の限定的になるため、例えば市役所のロビー、田無駅の改札の一角など借りて、模造紙に書けるものを用意し、声掛けしてアイデアを自由に書き込んでもらうこともよい。関心を持ってもらえる機会にもなる。情報を提供して、関心をもってもらうチャンスになる。できれば、人が集まる場で周知しながら意見を幅広く聞ける手法がいいのではないかと。

○座長

広報誌で呼びかけることは可能か。

○事務局

広報誌であると、呼びかけに期間が必要である。

○委員

自治会の回覧に入れさせてもらうことはできないか。

○事務局

西東京市には回覧板がない。

○委員

地域によって実施しているところとしていないところがある。

ホームページはいかがか。

○事務局

ホームページやLINEでは情報発信できる。

○委員

住民主体、参加、市民団体活動といった従来の博物館のオーソドックスなものではない方向性のため、地域の宝といった生活の中にあるものを考えられるとよい。

地域博物館の言葉のイメージも資料室のようなイメージが強い。型にはまったワークショップになっている印象である。

○委員

初めの入口は柔らかくし、聞きたい項目については、その後で聞く。

○座長

最近ミュージアムという言葉でイメージの言葉にしていることもある。

次に、その他について説明をお願いします。

○事務局

【資料8により説明】

○座長

ご意見、ご質問はあるか。

○事務局

事前に第2章

記載を詳しくするご意見をいただいている。

○座長

谷戸の件では、調べると田無、谷戸、保谷、上宿という文献があった。保谷と田無が合併した根本を記載できたらよいと考える。

また、文化財保存活用区域を含めて答弁できればよいと考える。

《閉会》